

## 第 8 章 上五島分教室の研究

## 第8章 上五島分教室の研究

### 1 上五島分教室の研究テーマ

単元別指導計画表の作成

### 2 研究テーマ設定の理由

学習指導要領の改訂に伴い、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にすることが求められ、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が求められるようになった。このことは、子供たちにどのような力を育てたいか、どのように身に付けさせるのかを明確にしていくことが求められるようになったということである。

上五島分教室においても、これまでの単元構想のツールを使用した授業実践を通して挙げた課題等を踏まえながら教育課程の改善を行っていくことで、上五島分教室の教育課程をより充実したものにしたいと考える。

### 3 研究の目的

新学習指導要領に示された内容に基づいた高等部3年間の指導計画を定め、単元別指導計画表を作成する。

### 4 研究の内容

#### (1) 研究の方法

|        |   |
|--------|---|
| 平成30年度 | 新学習指導要領の読み込み、疑問点の整理<br>進路先等へのアンケート調査の実施<br>単元別指導内容表の見直し |
| 令和元年度  | 新学習指導要領の読み込み、疑問点の整理<br>佐世保特別支援学校合同の単元別指導計画表の検討(国語・数学)   |
| 令和2年度  | 単元別指導計画表の作成(社会・理科)                                      |

#### (2) 研究会の経過(令和2年度)

| 回   | 月日    | 内容                       | 形態    |
|-----|-------|--------------------------|-------|
| 第1回 | 4月21日 | 合わせた指導について検討<br>(生活単元学習) | 2グループ |
| 第2回 | 4月22日 | 合わせた指導について検討<br>(作業学習)   | 2グループ |
| 第3回 | 4月27日 | 合わせた指導について検討<br>(生活単元学習) | 全体    |

|      |        |                               |    |
|------|--------|-------------------------------|----|
| 第4回  | 5月 1日  | 合わせた指導について検討<br>(作業学習)        | 全体 |
|      | 6月26日  | 合わせた指導に関するアンケート実施             | 全体 |
| 第5回  | 7月27日  | 作業学習の方向性を決定                   | 全体 |
| 第6回  | 7月29日  | 生単の教科化(R4)を決定                 | 全体 |
| 第7回  | 8月 6日  | 日常生活の指導の教科化(R3)を決定            | 全体 |
| 第8回  | 10月28日 | 3年間の指導計画表作成(社会・理科)            | 全体 |
| 第9回  | 11月25日 | 単元別指導計画表検討(社会・理科)<br>研究紀要経過報告 | 全体 |
| 第10回 | 12月25日 | 単元別指導計画表検討(社会・理科)<br>研究紀要報告   | 全体 |

### (3) 研究の実際

【第1回～第4回】 教育課程の検討(各教科等を合わせた指導)

はじめに、今年度の単元別指導計画表作成の検討を進めるにあたり、現状の分教室における教育課程について確認を行った。その中で、時数配分の整理が求められている「各教科等を合わせた指導」に焦点を絞り、良い点と改善点を明らかにすることにした。

研究の進め方としては、生活単元学習と作業学習について意見を出し合うことにし、教員を2グループに分け、それぞれのグループで「良い点」と「課題」について話し合ったことを全体に伝え、内容の共通理解を図る方法をとった。

生活単元学習においては「各教科の内容を効果的に学べる」「身近な題材に焦点を当てることで実際生活に即した学習ができる」「行事と関連させながら学習することができる」といった良い点が挙げられた一方で、「教科の目標についての不安」や「目標よりも活動重視になっていないか」「合わせた指導を行うことでより複雑になっていないか」などの意見も出された。

また、現状の生活単元学習においてどのような学習が行われているのかを整理するために単元ごとに学習内容の確認を行い、それぞれどの教科の内容に当てはまるかを検討した結果、社会・理科の分野の内容が多くあることを確認することができた。

同様に作業学習についても検討した。

(生活単元学習の検討)

| 良い点   | 課題   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の内容を効果的に学べる。</li> <li>・身近な題材に焦点をあてられることで、実際生活に即した学習ができる。</li> <li>・段階的に学ぶことが設定できる。<br/>(上五島→長崎→日本など)</li> <li>・他教科で学習した内容を繰り返し学習することができる。</li> <li>・卒業後の生活にリンクさせやすい。</li> <li>・行事や各教科と関連させて学習ができる。<br/>例) 修学旅行…地図、時刻表、運賃<br/>公共交通機関の利用<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを深めることが難しい。</li> <li>・学習のねらいが担当によりぶれたりしないか心配。</li> <li>・教科ごとの目標をどう設定するか。</li> <li>・目標よりも内容(活動)主体の学習になっていないか。</li> <li>・他教科との関連。うまく関連できないと逆効果になるかも。</li> <li>・各教科が関連していることで学習する内容が多くなる。<br/>…合わせた指導よりも、教科として捉えた方がすっきりするのではないか。</li> </ul> |

(作業学習の検討)

| 良い点   | 課題  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場面を想定し、実践の中で学ぶことができる。(挨拶・返事・報告など)</li> <li>・実習と関連させながら学習することができる。</li> <li>・同じ学習内容でも、個に応じた目標設定→指導→振り返りができる。</li> <li>・製造から販売までの一連の流れを経験することで、働く喜びや楽しさを味わうことができる。(達成感、成就感)</li> <li>・様々な活動(班)で学ぶことで、自分の適性に気付くことができる。</li> <li>・自身の成長の過程が分かりやすい。<br/>(最初はできなかったけど…)</li> <li>・他教科で学習した内容を繰り返し学習することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業内容のバリエーションが少ない。(サービス系?生徒数?)</li> <li>・自ら考え、実践する場面の設定が不足しているのではないか。</li> <li>・地域への発信をもっと行えるようにしたい。</li> <li>・作業の内容が大きく変わらないため、目標がぼやけることがある。</li> <li>・場面を設定するとできるが、実際の場面において実践できるか?</li> <li>・何の授業を合わせているか明確になっていないときがある。</li> </ul> |

【第5回～第7回】 次年度以降の教育課程の検討

第1回～第4回の研究会において、各教科を合わせた指導(生活単元学習・作業学習)について教員間で意見交換を進めてきた。その中で、生活単元学習において社会・

理科の分野の学習内容が多くあることが分かった。

討議型の研究会では、教員全員が意見を表明することができにくいので、一人一人の意見を把握するためにアンケートを行うことにした。その結果、

- ①今年度、生単で行っている理科、社会の内容は、生単で行うより教科として理科、社会を立ち上げた方が良い。
- ②社会・理科を教科とすることで、指導すべき内容等は明確になる。

などの意見が挙げられた。一方で、

- ①指導計画を作成したり指導形態など検討したりする時間が必要。
- ②社会・理科とすることで教科の視点で考え、組み立て、評価できることは良いと思う。ただ、色々な学校が生単を教科にして、何年もたたないうちに生単に戻している現状をみると、その原因をきちんと分析する必要があるのではないかと。まずやってみるといふ考え方もあるが、なぜ元どおりになったか、何が原因だったのかを知った上でやってみるのはどうか。

といった慎重な意見も出された。

それを踏まえた上で、次年度については生活単元学習の内容を社会・理科の分野に絞り、実際に授業を行いながら指導方法の検討を進めることにした。その際、学習する内容の整理や授業の目標を明確にするためのツールとして社会・理科の分野での単元別指導計画表を作成することにした。

#### 【第8回～第10回】 単元別指導計画表を基にした授業実践についての検討

次年度から試験的に社会・理科の授業実践を行っていく上で「育成を目指す資質・能力」をどのように身に付けさせていくかを明確にするるとともに、生徒に資質・能力を身に付けさせるための指導内容等の整備が必要になることから、単元別指導計画表の作成に取りかかった。授業の構成については学習指導要領における内容を確認しながら分教室の生徒が3年間で学習指導要領の内容を網羅できるように年間指導計画を作成し、単元ごとに授業内容を検討し、単元別指導計画表を作成することにした。

単元別指導計画表のフォームは、本校あたご（知的障害部門）高等部の様式を参考にして作成を行った。記入の際の確認事項として、

- ①1年単位でなく、3年間で全ての内容を学習するように年間指導計画を作成する。
- ②育てたい力については「自分の学習課題が分かり、取り組む」「生活の中で活用できる技能を身に付ける」「決まりや指示を理解して行動し、分からないときは聞く」の三つから選択し、記入する。
- ③単元の目標については学習指導要領の目標を記入する。  
(文言は単元に合わせて変更する。)
- ④学習する際の教材については「くらしに役立つ社会」「くらしに役立つ理科」、NHK for schoolなどを多く用いるようにし、授業者が変わっても学習する内容や活動が変わらないよう統一を図ることにした。
- ⑤意見を発表したり、話し合う活動を多く入れたりするようにし、主体的対話的で深い学びになるようにする。

⑥教員一人当たり3～4単元を担当し、単元別指導計画表の作成を行う。

以上のことを踏まえて作成した。(添付資料1)

#### (4) まとめ

今年度、まず始めに教育課程についての検討、整理を行うことからスタートしたことで、研究を進めながら上五島分教室の教育課程を改めて考え直す機会とすることができた。その中で、各教科等を合わせた指導の一つである生活単元学習について検討する中で、社会・理科の分野が多くあることを確認できたことから実際に教科指導の形態で授業を行うことにし、社会・理科の分野での単元別指導計画表を作成することができた。次年度、試験的に社会・理科の授業実践に取り組み、出てきた課題を改善していくことでカリキュラム・マネジメントを推進していきたい。

また、内容の検討をする際には、グループに分かれて話し合いを行った上で挙げた意見を全体場で共有したり、自分の考えを伝えやすくなるように教員全員にアンケートを取ったりすることで教員間の共通理解を図ることができた。

この方法は、参加者一人一人が自分の考えをまとめ、他者へ表出するために有効であったと考える。会議の場面で挙手し、注目を浴びながら発言することに抵抗感をもつ人にとっては自分の意見を出しやすく、その意見が研究に影響することを体験することで自信を高めることにつながったと感じる。教員全員が主体的に研究に取り組むことができたことは上五島分教室の財産になった。

今後、他の教科についても単元別指導計画表の作成を進めながら上五島分教室の教育課程をより充実したものにしていきたい。

#### [参考文献]

文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月告示)

単元別指導計画 ( 社会 )

学年 全 年生 ( ) グループ

単元名 ( 公共施設の役割と制度 ) 記載者 ( 戸村文夫 )

| 育てたい力             |   | 生活の中で活用できる技能を身に付ける  |  |
|-------------------|---|---|--|
| 単元目標              | A (知識・技能)   | 公共施設の役割と制度について、様々な資料や具体的活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、機能を適切に調べまとめる技能を身に付ける。  |  |
|                   | B (思考・判断・表現)  | 公共施設の特徴や利便の異同、意味を多角的に考える力、自分の生活と結びつけて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや決断したことを表現する力を養う。  |  |
|                   | C (学び・人間性)  | 社会に主体的に関わりようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。   |  |
| 時                 | 学習活動・活動のねらい   | 手立て・指導上の留意点   | 教材   |
| 1年間に3回ずつ行う。3年分記載。 |   |   |  |
| ①                 | ①Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う。<br>②くらしに役立つ社会を読み、キーワードにマーカーを引き、ルールやマナーを発表する<br>③選択式のテストに指の数で答える                    | ①「店が駅の近くにあるのはなぜ？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる<br>②読ませた後、キーワードを伝え探させる。発表の際は理由を言わせ、同意見の人に挙手させる<br>③間違えた生徒には正答した生徒が理由をつけて教え、その後に再テストに答えさせる | Eテレ (3社)<br>駅の周りを見たい<br>くらしに役立つ社会<br>28~29 |
| ②                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③くらしに役立つ社会を読み、キーワードにマーカーを引き、買物の注意について発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える | ①前時と同じテストだが、正答番号を変える<br>②「なぜたくさん公共施設を作っているの？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる<br>③上に同じ<br>④上に同じ   | Eテレ (3社)<br>公共施設って何<br>くらしに役立つ社会<br>44~45  |
| ③                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③航空写真等で見える、上五島の港にある建物について発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える             | ①上に同じ<br>②「港に工場がある理由は？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる<br>③生徒の家の近くの港を見せ、説明させる。<br>④上に同じ  | Eテレ (3社)<br>港を探検したい<br>グーグルマップ             |
| ④                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③<br>④選択式のテストに指の数で答える   | ①上に同じ<br>②「事件や事故が起きたらどうする？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる<br>③読ませた後、キーワードを伝え探させる。教師が警察役になって練習させる<br>④上に同じ                                 | Eテレ (3社)<br>大切な安全を守る<br>くらしに役立つ社会<br>34    |
| ⑤                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③くらしに役立つ社会を読み、キーワードにマーカーを引き、通報の仕方を練習する<br>④選択式のテストに指の数で答える    | ①上に同じ<br>②「なぜたくさん公共施設を作っているの？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる<br>③上に同じ。教師が消防官役<br>④上に同じ  | Eテレ (3社)<br>火事が大変だ<br>くらしに役立つ社会<br>35      |
| ⑥                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③航空写真等で見える、上五島の川やダムなどについて発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える             | ①上に同じ<br>②「長い間雨が降らなかったら？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる。<br>③生徒の家の近くの川やダムを見せ、説明させる<br>浄水場の場所を伝え、水道管の広がり教える<br>④上に同じ                       | Eテレ (4社)<br>飲料水のしくみ<br>グーグルマップ             |
| ⑦                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③簡易水洗のしくみを聞き、下水道との違いを発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える                 | ①上に同じ<br>②「なぜ汚れた水をきれいにするのか？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる。<br>③自分の家が簡易水洗や汲取りなのかを発表させ、気になっていることを発表させる<br>④上に同じ                            | Eテレ (4社)<br>水を繰り返し使う<br>簡易水洗のしくみ           |
| ⑧                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③福島原子力発電所の映像を見て、自分の考えを発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える                | ①上に同じ<br>②「燃料がなくなってしまう、地球温暖化」箇所まで止め、解決策を理由を付けて発表させる。<br>③安全性と発電量の確保のどちら優先したいかを理由をつけて発表させる<br>④上に同じ                                | Eテレ (4社)<br>くらしを支える電気<br>福島原発の映像           |
| ⑨                 | ①前時の振り返りテストに答える<br>②Eテレを見て、問に対する意見を発表し合う<br>③くらしに役立つ社会を読み、キーワードにマーカーを引き、ゴミの分類を発表する<br>④選択式のテストに指の数で答える    | ①上に同じ<br>②「ゴミを減らす工夫はないの？」箇所まで止め、予想した理由を付けて発表させる。<br>③読ませた後、キーワードを伝え探させる。発表の際は理由を言わせ、同意見の人に挙手させる<br>④上に同じ                          | Eテレ (4社)<br>ゴミのゆくえ<br>くらしに役立つ社会<br>65      |
| 単元評価              | A (知識・技能)   | くらしを支える公共施設の名称と働きを理解することができたか。  |  |
|                   | B (思考・判断・表現)  | 困ったときの相談先や自分の願いをかなえる際に使う公共施設を使い分けることができたか。  |  |
|                   | C (主体的に学習に取り組む態度)   | 公共施設を実際に利用しようとする気持ちを高めることができたか。   |  |
| 次年度に向けて           | 項目  | 内容  |  |
|                   | 時数、時期、目標、評価、内容、手立て、教材、場の設定  |   |  |
|                   | 生徒の変容   |   |  |